

農林漁業成長産業化支援機構との 業務連携について

株式会社農林漁業成長産業化支援機構 (A-FIVE) と特定非営利活動法人日本プロ農業総合支援機構 (J-PAO) は、7月26日に業務連携に関する覚書を締結しました。

今回の業務協力は、A-FIVE と J-PAO とが、6次産業化による農林漁業の活性化を通じて活力ある日本経済の実現に寄与するよう、各々の業務においてより連携していくことを目的として締結するものです。

今後も両者は、農林漁業及び関連産業の発展に取り組む機関との連携強化を進めます。

専門部会の動き (7月分)

【人材育成①】

今回は、事務局に寄せられた相談について協議しました。

異業種から農業参入を検討している企業より現地視察先を紹介してほしいとの相談に対して、部会メンバーで視察候補先について協議したほか、農業参入してくる企業に対して、各営農類型ごとの業界動向や相場観がどうなっているかを事前にレクしておくことも必要ではないかとの意見も出され、相談者に提案することとしました。

【人材育成②】

今回は技術習得支援事業の研修内容と、主催するセミナーの検討を行いました。

技術習得支援事業の研修内容については、受講生が成功・失敗事例を検討するなかで、5年後の有るべき姿を想像できるようになることが大事などの意見がありました。

また、J-PAO が今後主催するセミナー等について、参加実施時期や企画内容の確認を行いました。

【東北農業復興プラン検討部会】

今回は、南相馬市におけるタマネギの試験栽培の状況を報告し、課題と対応方策について検討しました。

試験栽培については、一部の農家を除き、全体としては順調に推移している状況です。

今後、8-9月の収穫に向けて、講演会や視察などのイベント準備や、販路開拓などの支援も進めていく予定です。

【事業化支援・販売支援③】

今回は、成功している2つのブランド化事例についての検証を行いました。

まず、「馬路村のゆず」は、原料の安定供給に加え、「村」を全面的に出した広告・パッケージで、他製品との差別化に成功したことなどが成功要因との意見がありました。「新潟のただちや豆」は、品質保持のための種子の一元化や、日持ちさせるための技術開発、官民一体のブランド化運動などが奏功したとの意見が出され、それぞれの事例に対し、各分野の見地から検証しました。

次回は、りんごのブランド化を題材に検証を進める予定です。

商談会スキルアップセミナーのご案内

開催日時：2013年8月21日(水)

17:30~18:45

開催場所：東京ビックサイト会議棟 610 会議室

募集人員：50名 (先着順)

受講料：2000円 (当日会場にてお支払い)

演題：イオン農業への取り組み

講師：イオンアグリ創造株式会社

代表取締役社長 福永庸明 氏

*申込はこちら↓

<http://www.j-pao.org/news/seminar/2013/0184/>

第4回ファーマーズ&キッズフェスタ

11/9(土)~10(日)、「子供と農業をつなぐ架け橋」をテーマに第4回「ファーマーズ&キッズフェスタ2013」が開催されます。

2日間で64千人の来場者(前年実績)があるこのイベントでは、農産物の販売や展示を行う出展者を募集中です。出店や協賛についてのお問い合わせは、事務局までお願いします。

*ファーマーズ&キッズフェスタの内容が公開されています。J-PAOホームページのバナーをクリック下さい。

主な活動 (7/3~8/9)

7/10 第72回企画運営委員会

7/16 公庫秋田支店アドバイザー連絡会 後藤

7/30 青森県農林水産部研修会 高田

8/2 宮城県農業法人等支援事業 高田

往復書簡

今回は、村上 進氏(熊本県、(有)木之内農園)と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡2回目です。

拝啓 高木 勇樹様

梅雨が明け、ここ九州でも毎日暑い日が続いております。阿蘇高原でも朝夕は過ごし易いのですが、日中は厳しい日差しに仕事がかどらず、夜明けとともに収穫を始め、長めの昼休みをとってから再び仕事をするという夏シフトで、スタッフ一同頑張っています。

お返事をいただきありがとうございました。農業の現場にて日々過ごす中で感じていることがあります。耕作放棄地が広がる一方で農地集約が課題になっております。しかし耕作放棄地は耕作不利な農地であることが多く、いわば放棄されるべくして放棄された農地であり、優良農地は今でも取り合いになっていることが多い事実があります。新規就農者は、私たちの村でも増加していますが、それ以上のペースで高齢化が進んでいるのをひしひしと感じます。このままでは農家の持つ優れた技術が若手に継承される時間が足りなくなってしまうことを危惧しています。農村集落の活力の源泉は人であり、人手があつてはじめて成り立つものだと思います。私たちの集落も甚大な被害に見舞われた豪雨災害から一年が経ちました。当時危険区域の調査は村の古老達が行いましたが、山の上の壊れた水路は私たちも知らない所が多く、複雑な水系はすぐに理解できない有様でした。

若い人が増えるためには雇用の場が必要であり、地域を牽引する経営体が必要です。「稼げる農業」が必要です。一方、農村は自然、環境、食育、癒し、福祉、アート、趣味的農業など側面の要素は幅広く、そのエンターテイメント性は都市とそん色のないものだと思います。子供もお

年寄りも一緒に仕事ができるのが農業のもう一つの良さであり、経済という物差しだけでなく幸福度という2つの物差しが成り立つ農村は、本来多くの人を受け入れられる懐の深さと魅力を持っていると思います。里山の新しい形は高木様の言われる持続的農業経営体が核となるものだと思います。「道で会った人には知らない人にも挨拶をする」「村の区役には必ず参加する」「村の飲み会には最後までいて途中で帰らない」など先代木之内の時から鉄則を若いスタッフにも徹底し、村の一員となる新規参入者を育ててゆきます。

敬具

平成二十五年七月吉日

村上 進(むらかみすすむ)

一九六四年 埼玉県川越市生まれ

一九八九年 日本デザインナレッジ学院修了後デザイン会社勤務

一九九六年 木之内農園勤務

二〇〇八年 (有)木之内農園代表取締役社長就任

現在、いちご、ミニトマト、じゃがいも等栽培、観光イチゴ狩り、農産加工、新規就農者育成を通し生命総合産業を目指す。



木之内農園の仲間と共に
左から2番目が筆者

拝復 村上 進様

残暑御見舞い申し上げます。

七月末の週末久し振りに伊豆河津に海を楽しみに行きました。海辺の日差しは強く、砂浜は焼けるような熱さでしたが、海からの涼風が一瞬暑さを忘れさせてくれ、海なし県がふるさとの私どもにとって大変貴重なご馳走でした。

現場で感じられている指摘されていることは正にすべて農業にとっての経営資源であると同時に農村の文化、伝統継承の基礎でもあります。

農地、人、技術、水路の所在、老壮青の連携などすべてそうです。これらを個々でなく全体として総合的に維持し、次代に継承していくシステムが必要だと思います。

その一翼を担うのが「持続的農業経営体」ではないでしょうか。そしてこの経営体を総合的に支援する法制度を創設し、貴兄の懸念を払拭することが喫緊の課題だと思います。安倍政権の目指す、強い産業としての農業、農業の成長産業化は、安倍総理の言われる岩盤の構造改革なくして成し遂げることとは無理だと思います。

私はその構造改革の核に先述したような役割、機能をもつ「持続的農業経営体総合支援制度」が据えられるべきと、機会あるごとに主張しております。

貴兄におかれても、ぜひ現場の切実な現実を踏まえ、声をあげ提言をして頂きたい。

お手紙の最後に書かれている鉄則は、日本という国柄、更にそれを構成する家族をはじめあらゆる組織における人間関係の共通原理と言ってもよいと思います。

まだまだ暑い日が続きます。村上社長はじめ皆さん呉々もご自愛くださるようお願いいたします。

平成二十五年八月吉日

敬具

高木 勇樹 (たかぎ ゆうき)

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒業後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など歴任。
一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官
二〇〇二年 ㈱農林中金総合研究所理事
二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任
二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長
現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

